

事故周知・再発防止〔平成 26 年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害:第3者物損事故	工事区分	道路工事
事故内容	クローラクレーンが標識版に接触	被災者	性別・年齢
被災状況	標識版を破損	被災者	職業

〔災害の概要〕

□現場の状況：

鋼製受圧版を設置するため、4.9t吊クローラクレーンにより受圧版を運搬中であった。

□事故の概要：平成(26)年(4)月(9)日(水曜日)

4.9t吊クローラクレーンにより鋼製受圧版を運搬中、大型道路案内標識板(島田市管理)に接触し、案内標識版を破損した。(監理技術者は担当監督員と打合せのため不在)

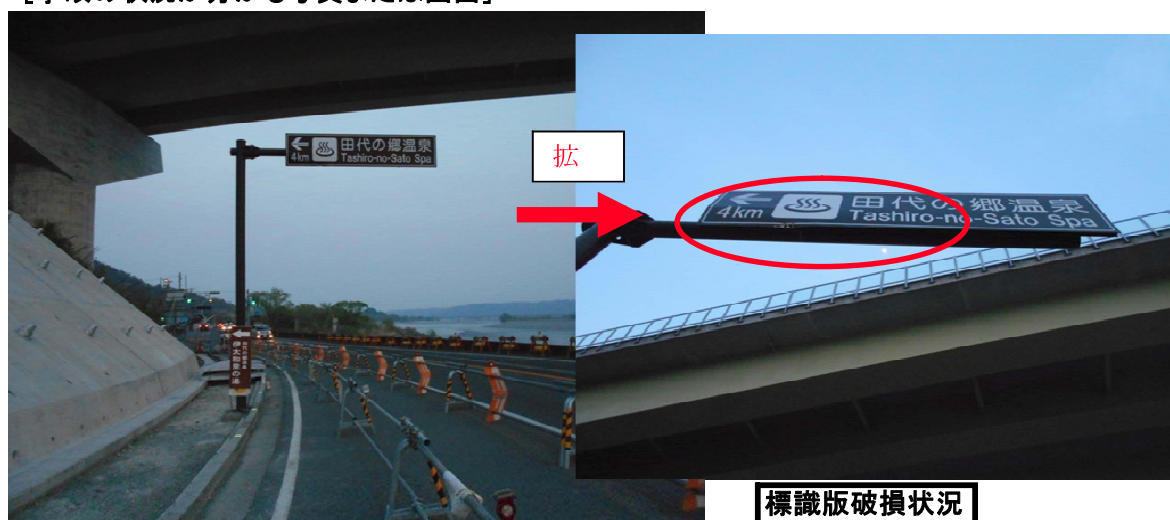
□安全対策の有無：

〔再発防止策〕

□問題点：①クレーン走行時、オペレータの周囲の認識不足。
②クレーン走行ヤードが狭く、吊り荷に気をとられていた。

□防止対策：①移動前に作業通路について、既設物・障害物の有無を確認。
②看板支柱に高さ表示と、看板の存在を示す注意喚起の表示をする。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



4.9t吊クローラクレーン



鋼製受圧版

事故周知・再発防止[平成26年度発生事例]

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	構造物取壊し
事故内容	水道管破損	被災者	性別・年齢
被災状況	既設水道管φ100破損	被災者	職業
<p>[災害の概要]</p> <p>□現場の状況： 現場は、(国)136号(伊豆市青羽根地内)の歩道及びバス停車帯を新設する箇所である</p> <p>□事故の概要：平成26年5月16日(金) 13時20分頃発生 (国)136号(伊豆市青羽根地内)の既設側溝をハンドブレーカーにて取り壊していた際、既設側溝のインパットコンクリートの中にあつた水道管(φ100)を破損させた。5月19日(月)の午後、水道管を切り回すことにより復旧したが、市への聞き取りによるとその際、45分程度の断水により59軒に影響が出た。(在宅軒数は不明)</p> <p>□安全対策の有無：有(誘導員とカラーコーンを設置し作業を行っていた)</p>			
<p>[再発防止策]</p> <p>□問題点： ①同業者が近隣で施工した別工事において、水道の位置を図面及び立会いにより十分な深さにあることを確認したため、本工事においては必要ないと勝手な判断をし、市への水道管の確認を怠つた。 ②本管が埋設されている市道に隣接する所で工事を行っている設備業者から、本管の位置は1m程度の十分な深さにあると口頭により確認していた。しかしこの情報が不正確であつたため、水道管を70cm程度のところで破損させてしまった。</p> <p>□防止対策： ①地下埋設物による工事への影響が疑わしい時には、事前に現場ごとに図面等で確認する。詳細な調査の際には、各埋設物管理者立会いのもと試掘を行い、埋設物の位置を確認する。 ②埋設物の位置や高さは、試掘により初めて詳細な情報を得ることができる。図面や聞き取りにより、支障となる恐れがある場合は管理者の指示を仰ぎながら作業を進める。また、調査結果を監督員へ報告する。</p>			
<p>[事故の状況が分かる写真または図面]</p>			

事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]



事故周知・再発防止〔平成 26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	自由勾配側溝据付け工事における掘削
事故内容	民地側空石積を崩壊させた	被災者	性別・年齢
被災状況	被災者なし		職業

〔災害の概要〕

□現場の状況：

・工事作業中(昼間)は全面通行止めの交通規制により、側溝設置のための掘削作業(掘削高1.5m)を0.2m3BHにて行っていた。掘削は掘削口に作業員を入れずに作業をしていた。
 ・施工箇所付近にNTT埋設管用のマンホールが設置されていることから、NTT同席の現場立会いの実施を当日(6月9日)に予定していた。6月6日(金)には、当該箇所を含む延長16m区間の既設側溝の取壊し撤去を行い、終点側から約11.0m区間は埋戻した状態(側溝据付完了位置から約5mは1.3mほど掘削した状態)で7～8日は休工した。6月9日(月)8:50より、起点側から側溝設置床付け面までの掘削を開始し、NTT柵までの掘削を終え、NTTとの立会確認中に民地の石積みが崩落した。

□事故の概要：平成26年6月9日(月)

民地側には空石積みがあり既設側溝もあることから、民地境界から約45cmの離隔を確保するとともに既設側溝の側壁を残存したうえで、掘削を行い側溝を設置していた。

しかし、当該箇所には、NTTマンホールがあり、民地境界から約45cm離隔を確保できないことから、民地側に寄せて設置する必要性が生じ、民地側空石積基礎に近接させた位置で掘削作業を行ったところ、空石積みが延長6mに渡り崩れてしまった。

□安全対策の有無 有(現場には交通誘導員の配置、単管バリケードを設置し、安全対策を行っていた)

〔再発防止策〕

□問題点：①当該工事区間のうちすでに側溝を設置した区間とは現場状況が異なったが、施工方法について発注者と十分協議せず、今までも問題なく施工した経緯から過信し、試掘によりマンホールの路面下の位置確認が不十分のまま設置完了済み区間と同様の掘削(L=16m)を行った。

②側溝据付完了位置から約5m区間は、1.3mほど掘削した状態のまま、6月7日～8日は休工した。7日は、大雨・洪水警報が発令(修善寺雨量観測所(時間雨量9mm、連続雨量98mm))されたが、当該箇所の養生などを行わなかったため、地山(石積基礎部)を緩めた可能性が高い。

③NTTの立会いによる試掘を先行し、地中内の位置を確認した上で、側溝据付け掘削範囲を検討すべきところを、民地寄りの掘削を先行した状態で、NTTマンホールの試掘を行うなど安全確保の作業手順が逆となってしまった。

④設計照査では、受注者は、当該箇所の施工について「石積み寄りに側溝を設置するため、側溝の通りが悪くなる」との指摘を提出した。これに対して、発注者は「石積みの崩壊を防ぐため、対策を施すこと」と回答をしているが、なんら対策をしないまま施工した。

□防止対策：①地下埋設物などにより施工条件が異なる部分の施工方法は、発注者と十分協議した後作業を進める。→今後の施工箇所については、仮設土留工により掘削を行う。(別添資料 図-1～5、参考資料)

②施工中の現場では、大雨洪水など異常気象情報などには十分留意し、必要に応じた養生対策を十分行う。

③地下埋設物の位置や規格が不明瞭の場合は、当該物件管理者立会いのもと試掘を先行し、それを踏まえた施工計画を発注者と協議する。

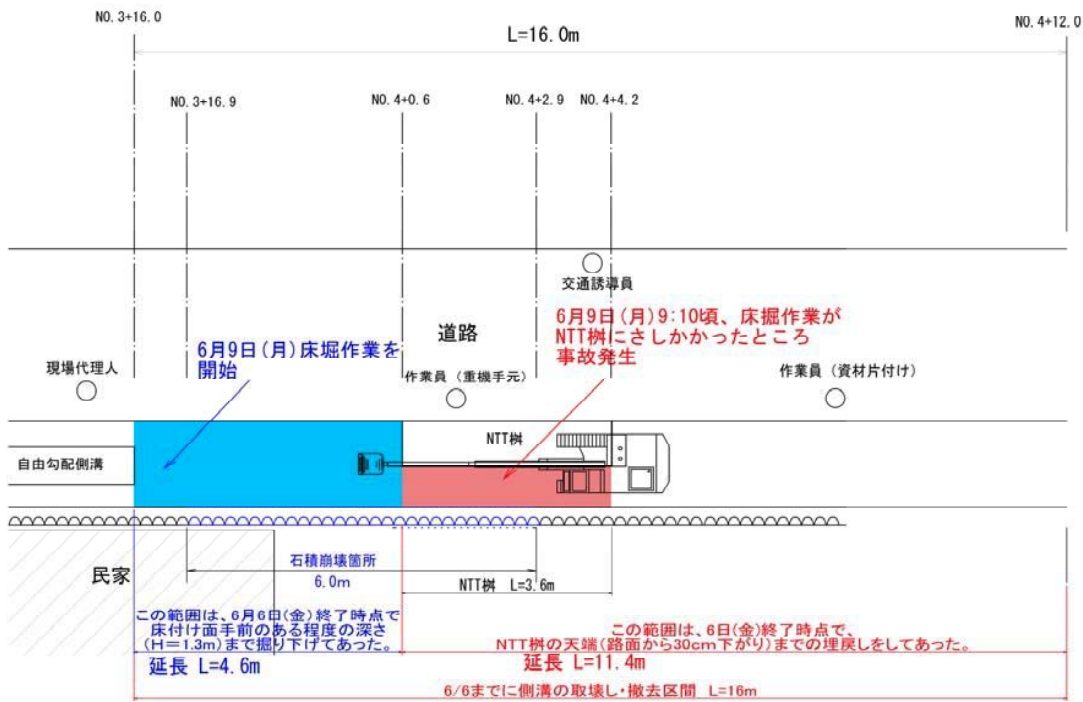
④設計照査で相互に確認した事項については、対応策を協議したうえで確実に実行する。

⑤掘削箇所が構造物に近接する場合は、測定機械、水系等を使い計測管理と、目視でも微細な変化が判別できるようにする。(別添図一⑥)

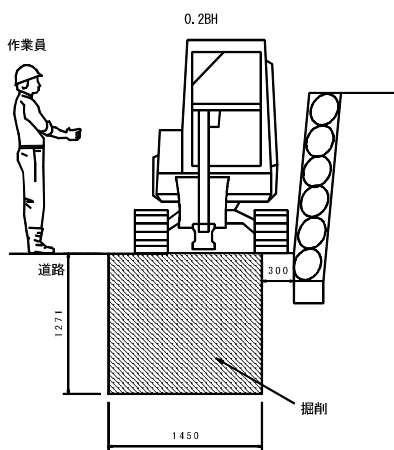
事故周知・再発防止〔平成 26年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

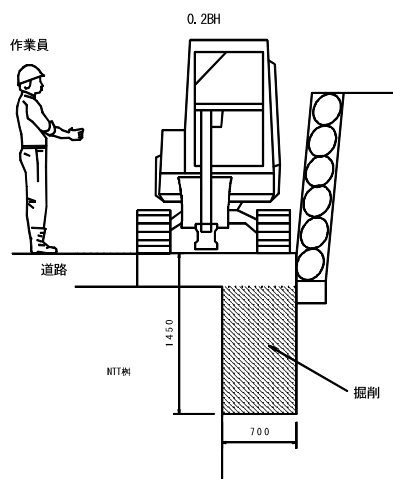
事故状況平面図



施工済箇所断面図 (事故前)



事故状況断面図



事例周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工 事 区 分	管渠工・集水柵工
事故内容	現場内作業	被 災 者	性別・年齢
被災状況	川根本町学校給食共同調理場 水道利用者4戸（3戸留守）		職 業
			無し

〔災害の概要〕

- 現場の状況： 管渠工・集水柵工の床掘作業を行っていた。
- 事故の概要： 平成26年6月27日（金曜日）9時30分頃
 自社作業員が管渠工・集水柵工の床掘作業を施工したところ、町営の水道管にバックホウの爪を引っ掛け破断させ（写真①）給食センター他4件が断水した。破断部を切断し、応急復旧したが（写真②）現道下からの引き続き漏水がみられた為、現道を掘削、破断箇所を確認し、復旧作業をおこなった。（写真③）
- 安全対策の有無： 有 作業内容の説明（朝に実施）
 水道管が埋設されているので注意する。（口頭での説明）

〔再発防止策〕

- 問題点： ① 水道管の埋設位置は町及び水道管施工業者との立会いの下、確認をした。路床盛土施工時に支障となったため水道管切廻し工事を実施しており、このときの掘削作業に従事したオペレーターが同一であったので、水道管の位置と深さが分かっているものと思いこみ、口頭での注意喚起のみで作業を進めさせてしまった。
 ②水道管埋設位置を舗装面にマーキングしていたが、掘削作業に伴い、マーキングとともに舗装版を撤去してしまった。
 ③水道管の埋設深さが床付け面より下にあるため、当たらないだろうと思い安易に掘削を行った。
- 防止対策： ①作業前に水道管の位置と深さを図面にて確認し作業中でも図面の確認を行いお互いに注意・確認しながら作業をする。
 ②舗装版撤去前に位置や深さを、作業に支障がない所に杭をうち水道管上方に糸がはれるようにし、位置と深さが確認出来るようにす
 ③水道管の天端より0.3m～0.4m位までを機械掘削にて行い、その後は人力掘削にて水道管の位置や深さの確認をしながら作業する。

[事故の状況が判る写真又は図面]



①破断後



②応急処置後



③復旧完了

杭か鉸の設置

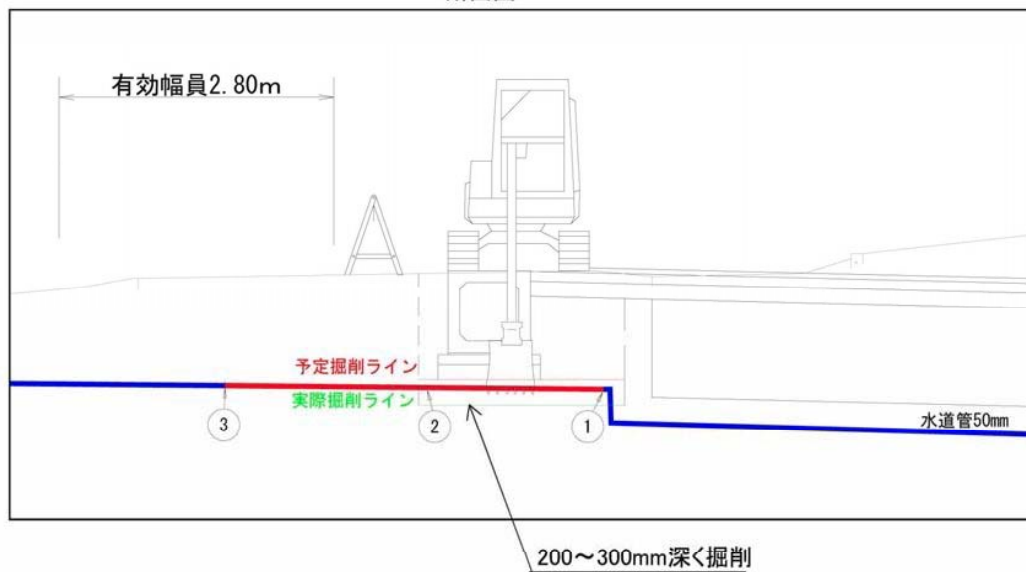
〔事故の状況が判る写真又は図面〕

平面図



バックホウにて床堀作業中、①の箇所において水道管を破断させてしまった。
 応急的に②で水道管を切断し接続したが、床掘していない埋設奥から水が漏れ出てきたため、掘削し調査
 したところ③のジョイント部が外れており、①と③を新たに接続し復旧を完了した。

断面図



事故周知・再発防止〔平成 26 年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	歩道整備工
事故内容	森町水道管破損	被災者	性別・年齢
被災状況	水道管破損、復旧作業による断水	職 業	

〔災害の概要〕

□現場の状況：
仮設防護柵基礎据付のためのBH床掘作業中。

□事故の概要： 平成26年7月30日(水曜日) 9時15分
森町上水道塩ビVPφ100mm管をBHにて破損

□安全対策の有無：

〔再発防止策〕

□問題点：①水道管の位置・深さは図面を信用し、確認をせず試掘もしなかった。
②想定した水道管位置に近接した床掘時において、補助作業員による監視など慎重な作業をするなどの配慮が不足していた。

□防止対策：①床掘時には水道管理者立会いの上、試掘を行い水道管の位置・深さを正確に確認する。

②水道管の埋設が予測される深さ30cm前から人力掘削にて慎重に確認しながら作業する。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

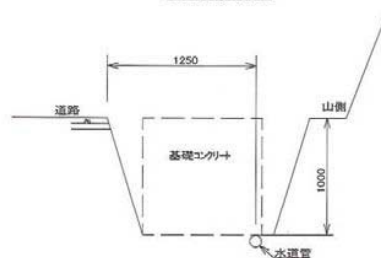
★事故状況写真



★復旧後の写真



No. 66_0付近横断面



事故周知・再発防止

災害の種類	公衆災害: 第三者物損事故	工事区分	
事故内容	物損事故	被災者	性別・年齢 -
被災状況	トンネル警報表示板に接触	職 業	-

[災害の概要]

□現場の状況：(国)135号伊東新井の神浦(カンラ)トンネル熱海側出口から80m程出た位置から、熱海側250mの区間において表層工の施工を行っていた。

□事故の概要：平成26年12月10日(水曜日) 4:30
ダンプトラック(10t)が、交通規制区間内のフィニッシャーにアスファルト合材を運搬完了後に、場所を移して、リアフェンダーのフック確認をしようとしたところ、上空を確認せず荷台を上げてしまい、トンネル警報表示板の点検用足場に接触した。

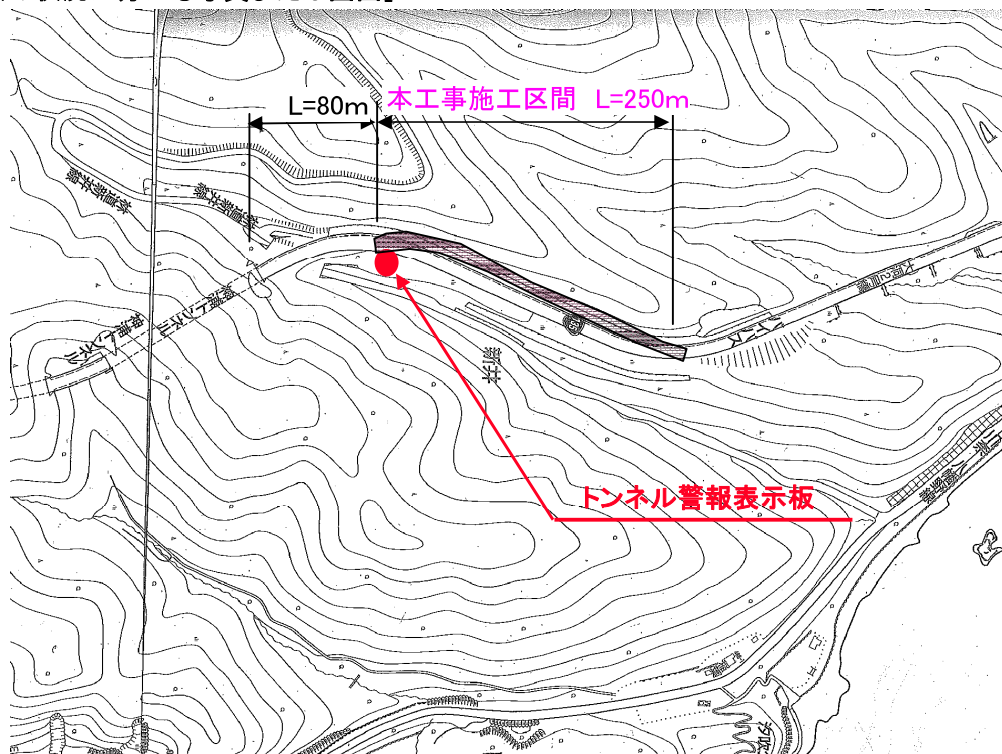
□安全対策の有無 合材運搬時のダンプトラックの後退については誘導員を配置し誘導を行っていたが、合材荷卸し後の前進状態でのダンプ誘導は行っていなかった。

[再発防止策]

□問題点：① ダンプトラック運転手が、現場内の状況把握不十分であり、頭上確認もせずダンプアップを実施した。
② 誘導員もダンプトラック後退時には車両誘導を実施するが、荷卸し後、前進で現場から出ていく時は安全確認意識が欠けていた。
③ 現場代理人、主任技術者、作業員、運転手、誘導員全体の安全に対する注意の伝達が欠けていた。

□防止対策：① ダンプトラック運転手に上空目視確認と、合図無の作業禁止を徹底させる。
② 誘導員は誘導車両が現場に入場し現場から出て行くまで、平面的だけではなく、立体的に注意を払い誘導を行う。
③ 現場代理人、主任技術者は現場の状況を綿密に調査把握し、新規入場者教育及びKY活動で施工現場へ入場するすべての人員へ注意事項・留意事項の徹底を図る。

[事故の状況が分かる写真または図面]



事故周知・再発防止

[事故の状況が分かる写真または図面]



12月10日(水)4:30 撮影



12月10日(水)9:00 撮影

事例周知・再発防止

災害の種類	公衆災害: 第三者物損事故	工事区分	既設構造物取り壊し
事故内容	簡易水道管破損	被災者	性別・年齢 -----
被災状況	断水(約35分)		職 業 -----
[災害の概要]			
□現場の状況:	橋梁下部工(A2橋台工)施工にあたり、作業ヤード構築のため、事業用地内の側溝を撤去していた。		
□事故の概要:	既設側溝を撤去するため側溝脇をBH0.2m ³ で堀削作業中に水道管(φ50塩ビ管)を破断させた。(平成26年12月15日15時10分頃発生)		
□安全対策の有無:	本管から枝管への止水状況の確認を怠った。		
[再発防止策]			
□問題点:	<p>①枝管より現場事務所に水を引く際、本管から止水されていたため、事業用地内枝管はすべて止水されていたと思込み、配管図等により埋設物、埋設位置、止水状況の確認が十分でなかった。</p> <p>②埋設物の存在が不明にもかかわらず、埋設物の確認を行いながらの慎重な作業とせず、作業を進めた。</p>		
□防止対策:	<p>①配管図等により埋設物、位置の十分な確認を行うとともに、埋設物管理者との現地立ち合いを必ず行う。</p> <p>②探査棒等による慎重、丁寧な作業に努め、施工前には、KY、TBMにて、埋設物付近の土工作業にあたる全員に認識させる。</p>		
[事故の状況が判る写真又は図面]			
			
水道枝管、φ50mm			

事故発生の原因と災害防止対策

問題点1 事前の埋設物確認が不十分であった。

対策

- ・十分に調査を行い、通常のインフラ設備に加えて、地元で管理する施設にも確認を行う。
- ・地元とのコミュニケーションを心がけ、埋設物の確認を行う。

問題点2 埋設物がないだろうと思い込みで現場を施工した。

対策

- ・思い込みで作業を進めない。

問題点3 長泉町の水道管を避けた位置の為に、慎重な手作業で堀削をしなかった。

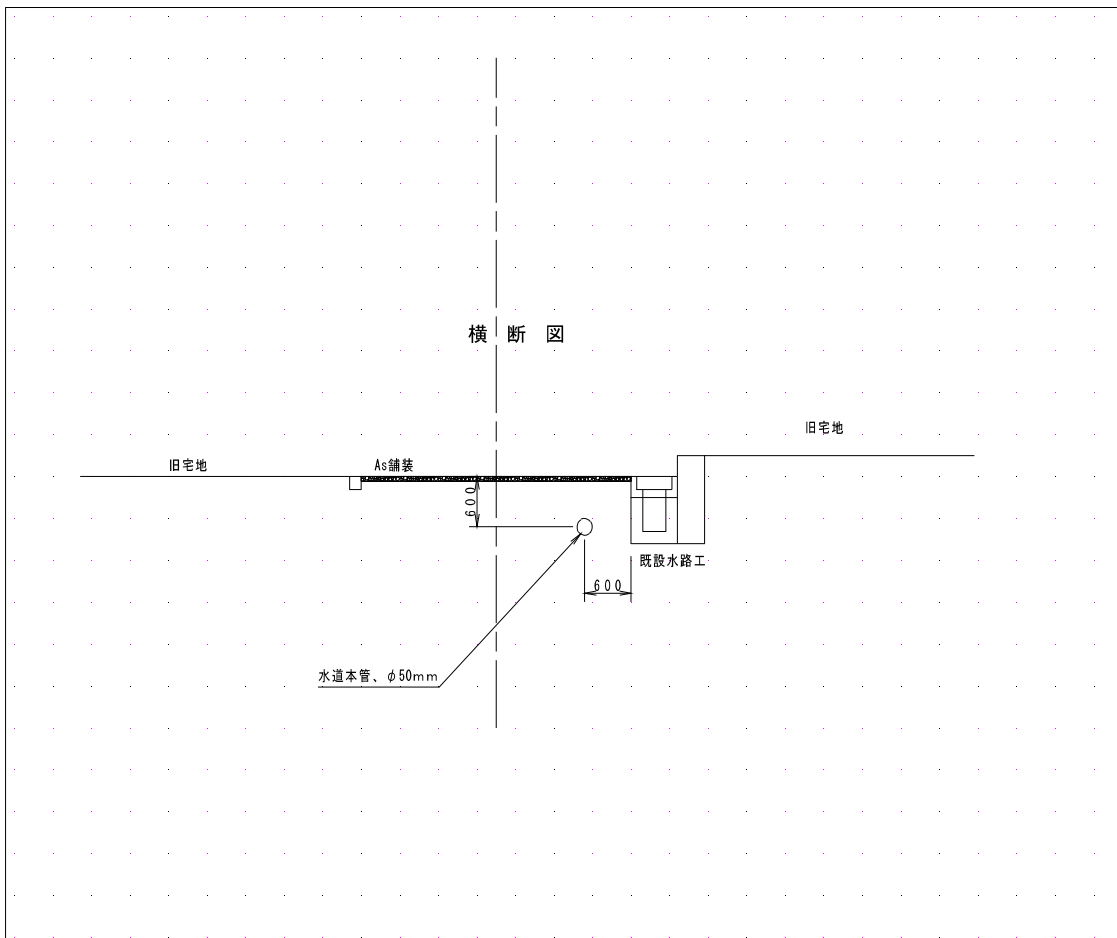
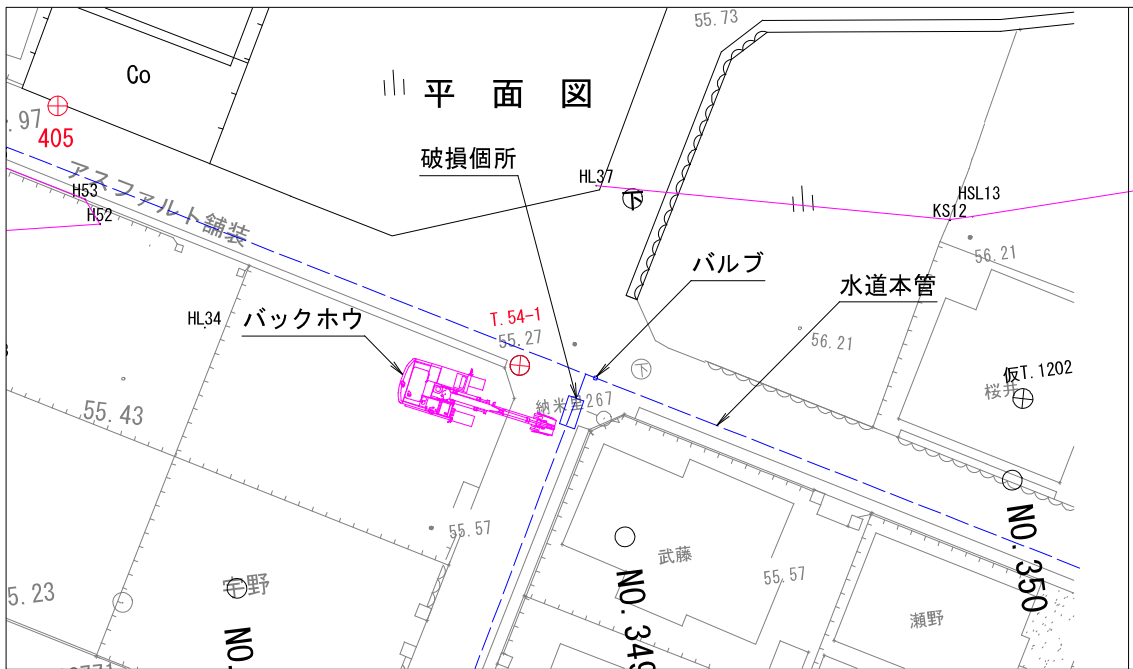
対策

- ・堀削作業中は作業員各自で堀削面に注意する。

問題点4 作業員の注意が不足していた。

対策

- ・埋設物付近での作業の場合、施工前に作業員全員に周知徹底させ安全管理を行う。



事故周知・再発防止〔平成 26 年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害:第三者物損事故	工事区分	道路工事
事故内容	バックホウが架線を引っ張り電柱破損	被災者 性別・年齢	-
被災状況	中部電力の電柱1本破損(折れ)	被災者 職業	-

〔災害の概要〕

□現場の状況:

橋台設置のため、バックホウ0.4m3で掘削、残土処理、整地をしていた。
また仮設土留め内の掘削用のミニバックホウ0.1m3の楊重の為、レッカー25tが待機していた。

□事故の概要:

平成26年12月17日 水曜日
バックホウホウ(0.4m3ロングアーム)が現場内移動中、電線架線(H=5.8m)を引っ掛けたことにより、中電柱が引っ張られ折れ曲がった。

□安全対策の有無 監視人をつけていた。

〔再発防止策〕

□問題点:

- ① 架線箇所、注意喚起、危険を促すものが無かった。
- ② 作業員に危険箇所、作業手順をしっかりと認識させていなかった。

□防止対策:

- ① 架線箇所に電線危険(重機立入禁止)標示を設置し夜間用照明を設置する。
- ② 危険箇所を表示、作業手順書を作成し、具体的に作業員に現場内の危険箇所を認識させる。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

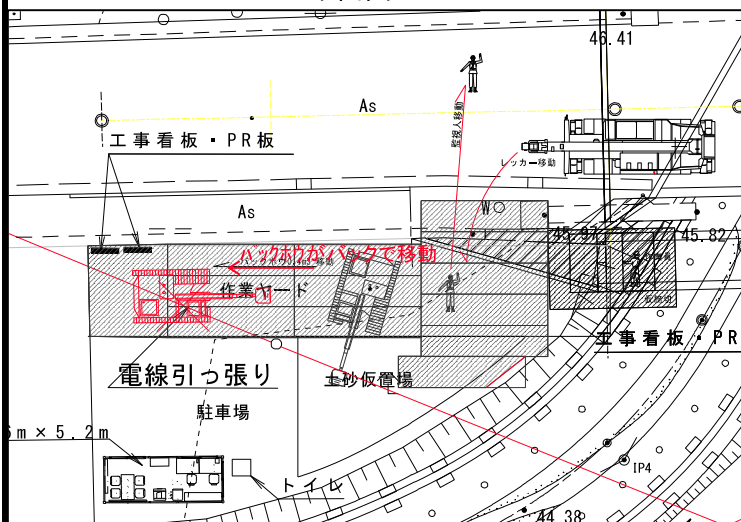


1. バックホウ0.4m3が監視人がついて残土整地をしていた。
2. レッカー25tを誘導するために監視人がバックホウの元を離れた。
3. 監視人が離れている間に、バックホウ0.4m3がバックで移動し、架線にアームを引っ掛け、電力柱が損傷した。

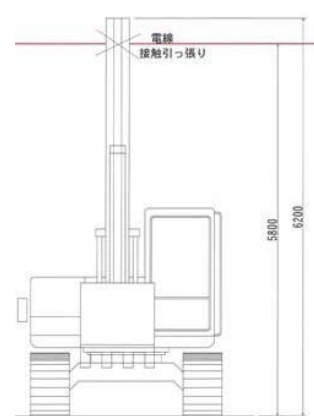
損傷した電柱(応急処置状況)



平面図



横断面図



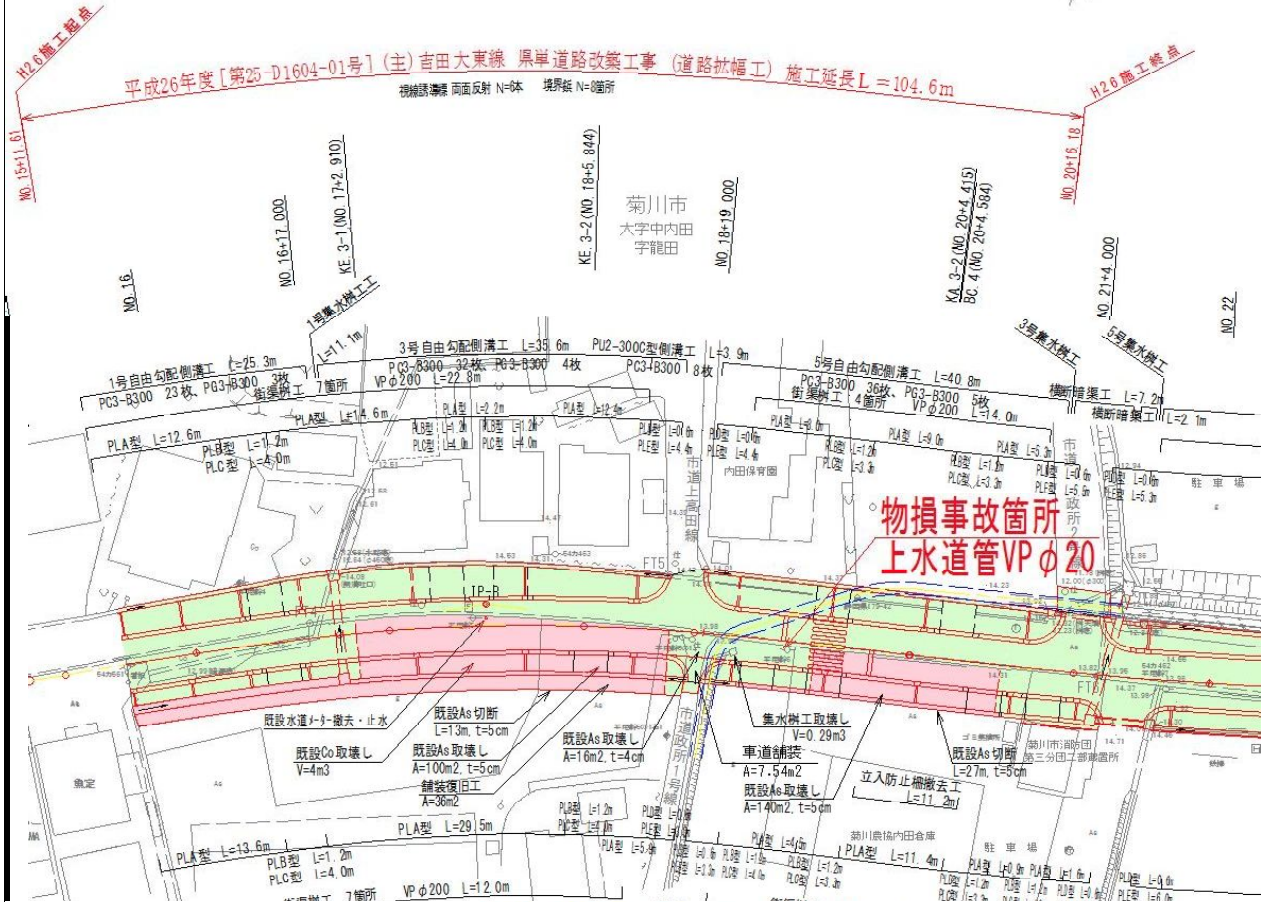
事故の概要と再発防止[平成 26 年度発生事例]

災害の種類	公衆災害:第三者物損事故	工事区分		道路拡幅工
事故内容	菊川市上水道管破損	被災者	性別・年齢	なし
被災状況	水道管破損		職業	なし
<p>[災害の概要]</p> <p><input type="checkbox"/>現場の状況: 既設コンクリト境界杭の撤去作業中</p> <p><input type="checkbox"/>事故の状況: 平成26年12月19日(金曜日) 8時30分 既設コンクリト境界杭を撤去しようとBH(0.2m3)にて吊った際、根巻コンクリト上面に菊川市の水道管(VPφ20)が通過しており、一緒に吊り上げたことにより破損した。</p> <p><input type="checkbox"/>安全対策の有無: 毎朝KYミーティングを実施(作業員7名)</p>				
<p>[再発防止策]</p> <p><input type="checkbox"/>問題点: ①朝のミーティング時に現場作業員との作業内容の打合せが不十分だった ②既設水道管の位置・深さから、境界杭の撤去に支障しないと思い込み、試掘を行わなかった ③埋設管が隣接していると知りながらバックホウで作業を行った ④水道管を破損したことについて担当監督員に連絡しなかった</p> <p><input type="checkbox"/>防止対策 ①当日作業について現場作業員を交えてミーティングを行い、KYを徹底する ②工事の施工に先立ち、管理者から事前に地下埋設物に関する情報を確認する。地下埋設物に関する詳細情報が現地で確認できない場合は、地下埋設物位置・深さ等を、管理者立会の上、試掘により確認をする ③メーター周りの水道管は、深さが変化することが多いことを意識し、埋設が予測される深さ30cm前から掘削深さを計測し人力掘削により慎重に作業する ④埋設物を破損した場合には速やかに担当監督員、管理者に報告する。 ⑤確認した地下埋設物の位置深さ等は、掘削時に容易に確認できるマーキングや表示板等の設置を行う ⑥社内全体と関連業者で再発防止のため安全対策協議会を行い、今回の事故原因・防止対策等の情報を共有化し、安全意識の向上を図る</p>				

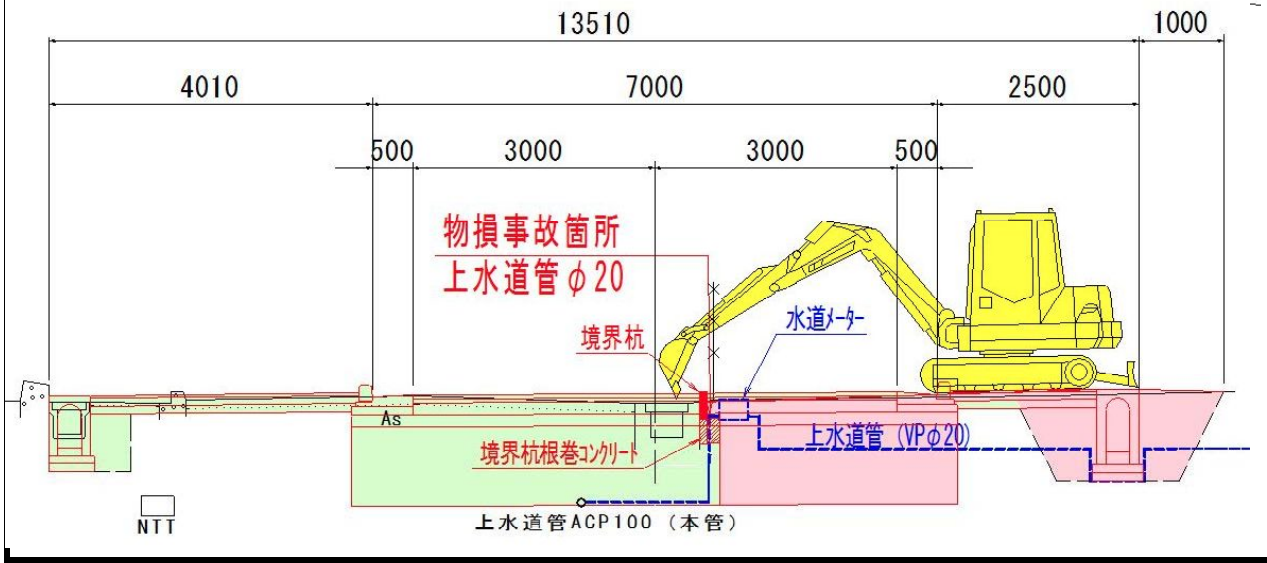
事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

計画平面図



横断面図

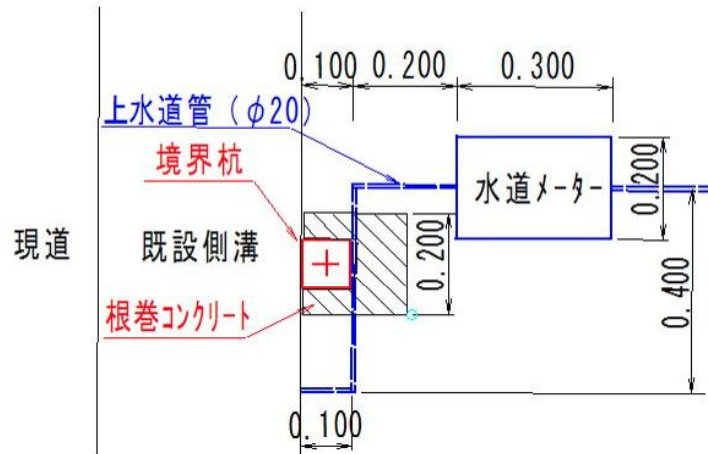


事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]

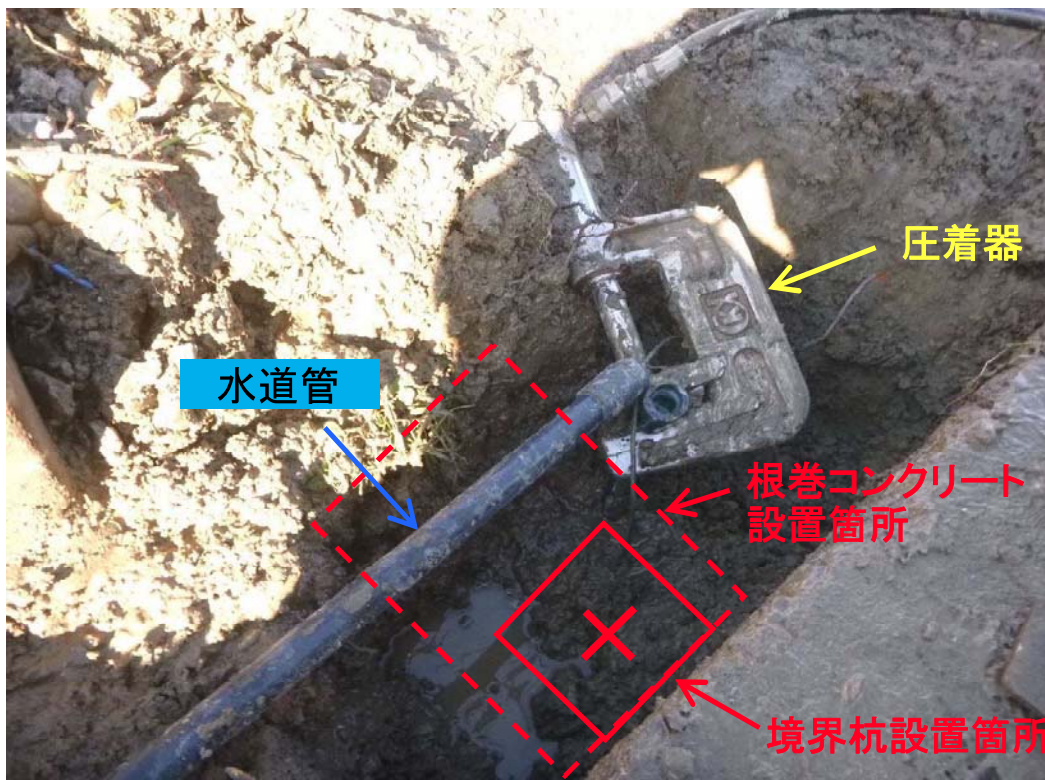
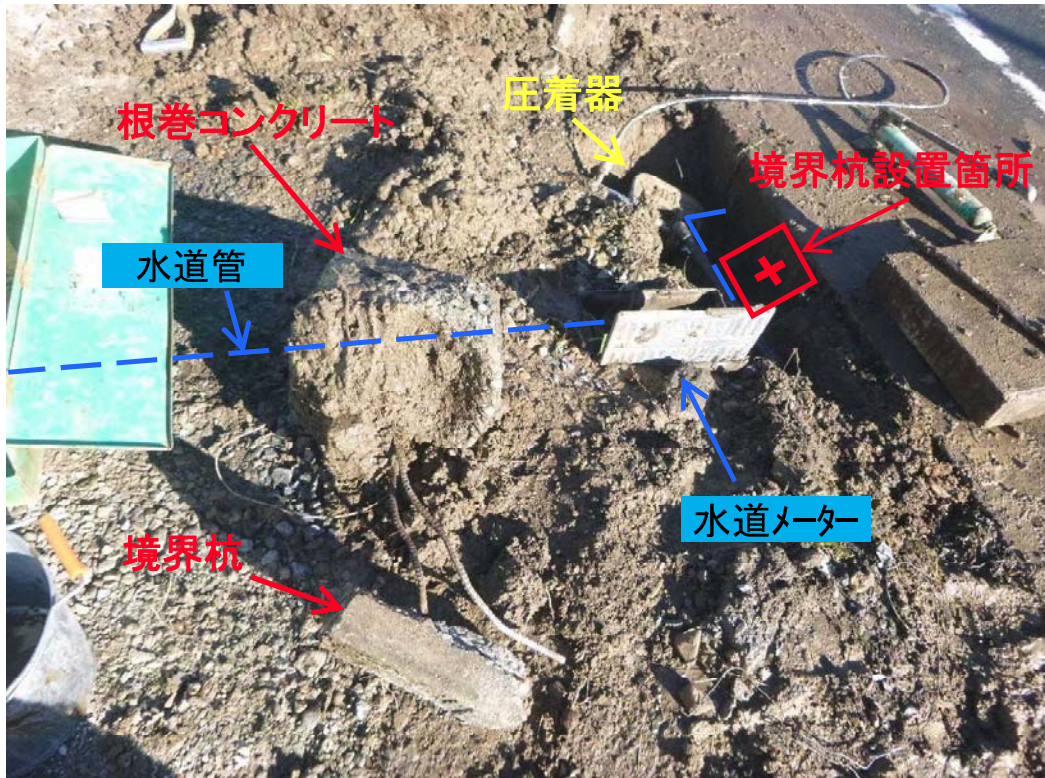


見取図



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害・第三者物損事故	工事区分	橋梁耐震対策工事
事故内容	仮栈橋支持杭打込みにより下水道管損傷	被災者	性別・年齢
被災状況	下水道管閉塞により汚水堆積	被災者	職業

【災害の概要】

□現場の状況：

橋脚巻立て工を施工するために右岸上流側から仮栈橋を設けており、仮栈橋上から仮締切のための鋼矢板を打設していた。

□事故の概要：平成26年12月25日（木曜日）

富士市役所下水道施設維持課より本工事施工箇所付近の下水マンホール内に汚水が堆積しているとの連絡があり、現地の既設下水道管の位置を測量した結果、仮栈橋の支持杭打込み箇所と重なっており、既設下水道管を損傷させたことが判明した。

□安全対策の有無 電気・ガス・NTT・水道に関しては工事施工前に事前調査を行っていた。

【再発防止策】

□問題点 ①設計図面等に埋設物についての記載がなかったため、そのまま施工した。

②事前調査時に下水管経路の確認をしていなかった。

③杭打込み時に支障がなかったため連絡があるまでわからなかった。

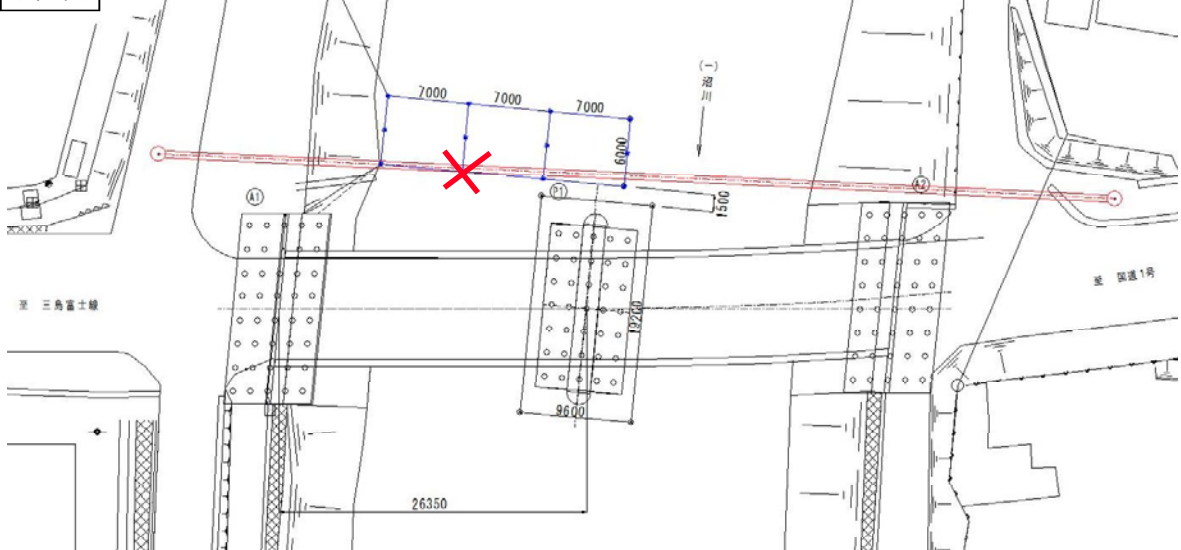
□防止対策 ①図面に記載がなくても埋設の可能性のあるものについては現地調査で必ず確認する。

②事前調査時に現場周辺のマンホールについては経路や行先を必ず確認する。

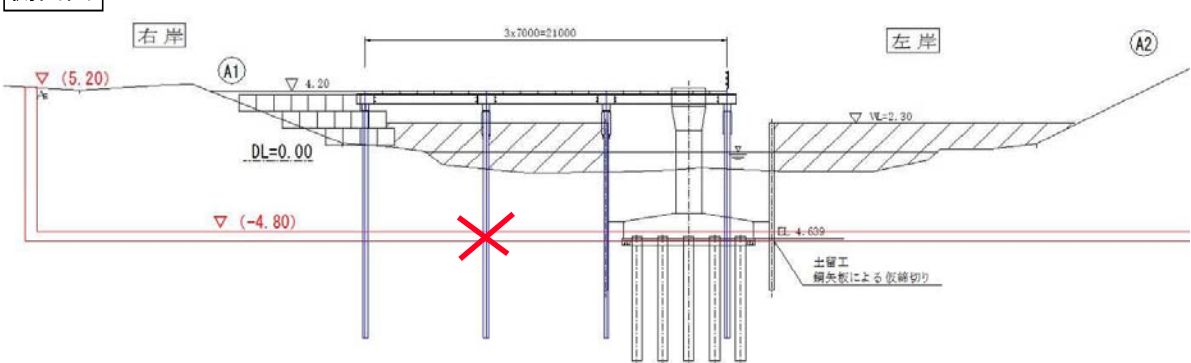
③巡視体制を強化し、現場及び周辺の状態に注意を払う。

【事故の状況が分かる写真または図面】

平面図



側面図



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]



下水管経路
北側から南側を望む



下水管経路
北側から南側を望む



下水管経路
南側から北側を望む



下水管経路
南側から北側を望む



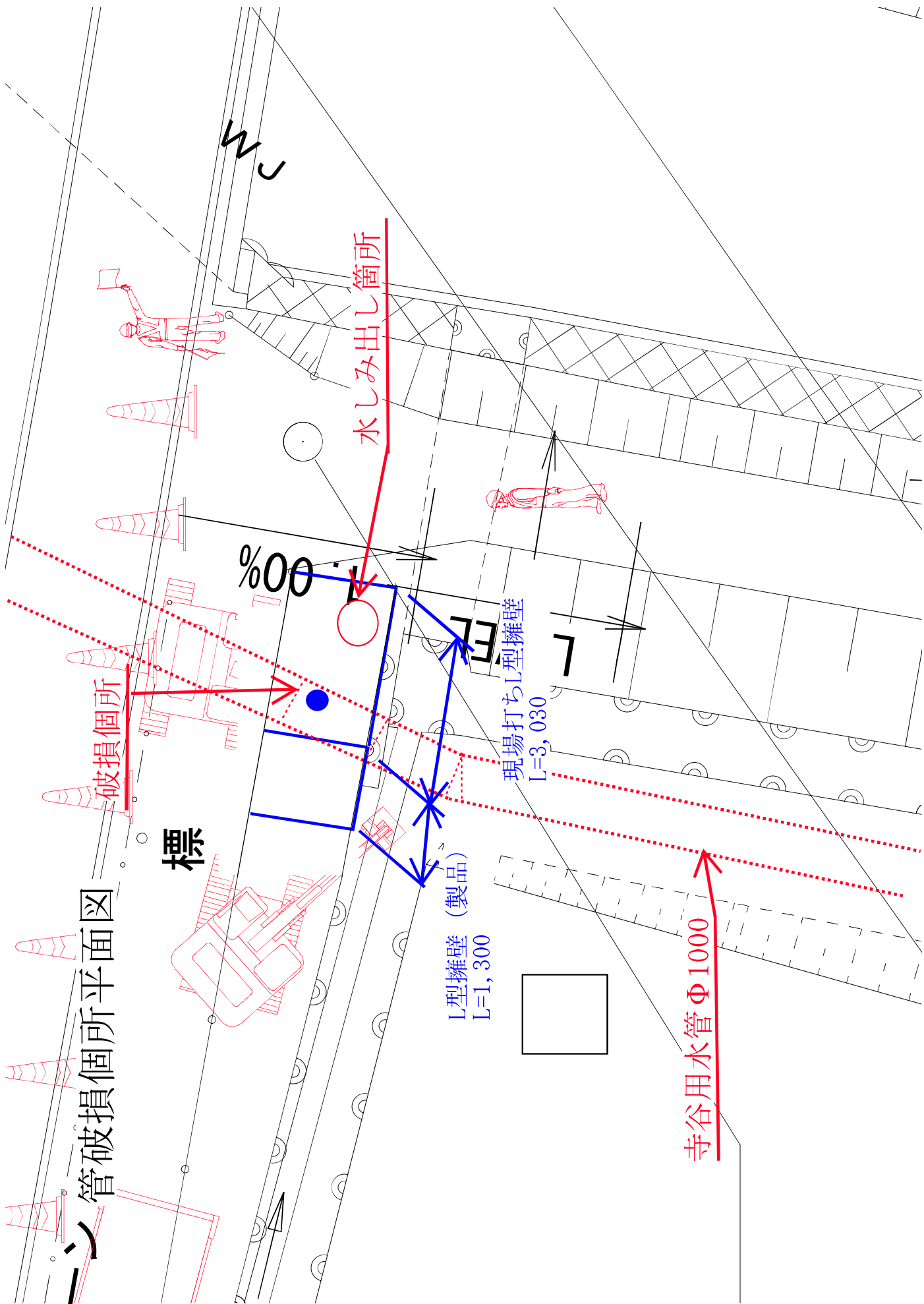
下水道管損傷箇所
西側から東側を望む



下水道管損傷箇所
南側から北側を望む

事故周知・再発防止

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	道路工事
事故内容	寺谷土地改良区ヒューム管破損	被災者	性別・年齢
被災状況	ヒューム管破損		職業
<p>[災害の概要]</p> <p><input type="checkbox"/> 現場の状況： 既設構造物の取壊し作業中</p> <p><input type="checkbox"/> 事故の概要：平成27年1月14日(水曜日) ブレーカー仕様のバックホウにて既設現場打ちL型擁壁の底版の取壊し作業中、地中より水が流出した。調査した結果、既設ヒューム管(φ1000)が擁壁下にあり、ヒューム管の存在に気付かずに破損させた。</p> <p><input type="checkbox"/> 安全対策の有無：交通誘導員を設置、反射材付カラーコーンにて作業範囲を確保 交通安全施設・・・工事看板、矢印板、反射材付カラーコーン、点滅灯</p>			
<p>[再発防止策]</p> <p><input type="checkbox"/> 問題点： ①電力や通信、上下水道等の通常の埋設物については確認を行っていたが、農業用水の確認が洩れていた。</p> <p style="padding-left: 20px;">②埋設物について、施工範囲の調査は行ったが、周辺の調査が不足していた。</p> <p style="padding-left: 20px;">③水の流出を地下水あるいは差し水と思い込んでしまった。 また、そのために監督員への報告が遅れた。</p> <p><input type="checkbox"/> 防止対策： ①農業用水を含めた地下埋設物の確認を徹底するとともに、道路管理者(発注者)にも占用物件の有無を確認する。 埋設物があることが確認された場合には、監督員及び各管理者と、打合せ、立会、試掘等を行う。</p> <p style="padding-left: 20px;">②施工範囲だけでなく、現場周辺を含め調査を行う。(用排水路、マンホール、空気弁等)</p> <p style="padding-left: 20px;">③施工中に、現場で異常が発見された場合や図面と現場で相違がある場合は、監督員及び会社に速やかに報告した上で対応方針を検討する。</p> <p style="padding-left: 20px;">④社内で事故再発防止委員会を開催し、今回の事故の問題点、防止対策等の情報を共有し、安全意識の向上を図る。 また、作業員に対しては安全訓練、KY活動において情報を共有する。</p>			
<p>[事故の状況が分かる写真または図面]</p> <p style="text-align: center;">別紙</p>			





水流出部状況

噴出箇所がより鮮明に確認

1月16日 9:11



水流出部状況

流出が止まる

1月16日 10:12



管内部写真

破損管の上流側からの撮影

1月19日



管内部写真

破損箇所直下より撮影

写真奥に見える白いものが
補修材 (エレホン)

1月19日



管内部写真

破損箇所より下流側の目地

1月19日

事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害・第三者物損事故	工事区分	橋脚補強工事
事故内容	バックホウ作業中、情報管(予備管)を破損	被災者	性別・年齢
被災状況	情報管(河川監視システムの光ケーブル)の予備管及び、取付け金具の損傷	被災者	職業

〔災害の概要〕

□現場の状況：

橋脚補強工が終わり、P7橋脚の埋戻し作業を桁下で行っていた。

□事故の概要： 平成27年3月9日(月曜日)

バックホウ(0.4m3)で埋戻し作業中、アーム部が橋梁に添架されている県の情報管(河川監視システムの光ケーブル)の予備管に接触し、取付け金具及び、予備管を損傷させた。

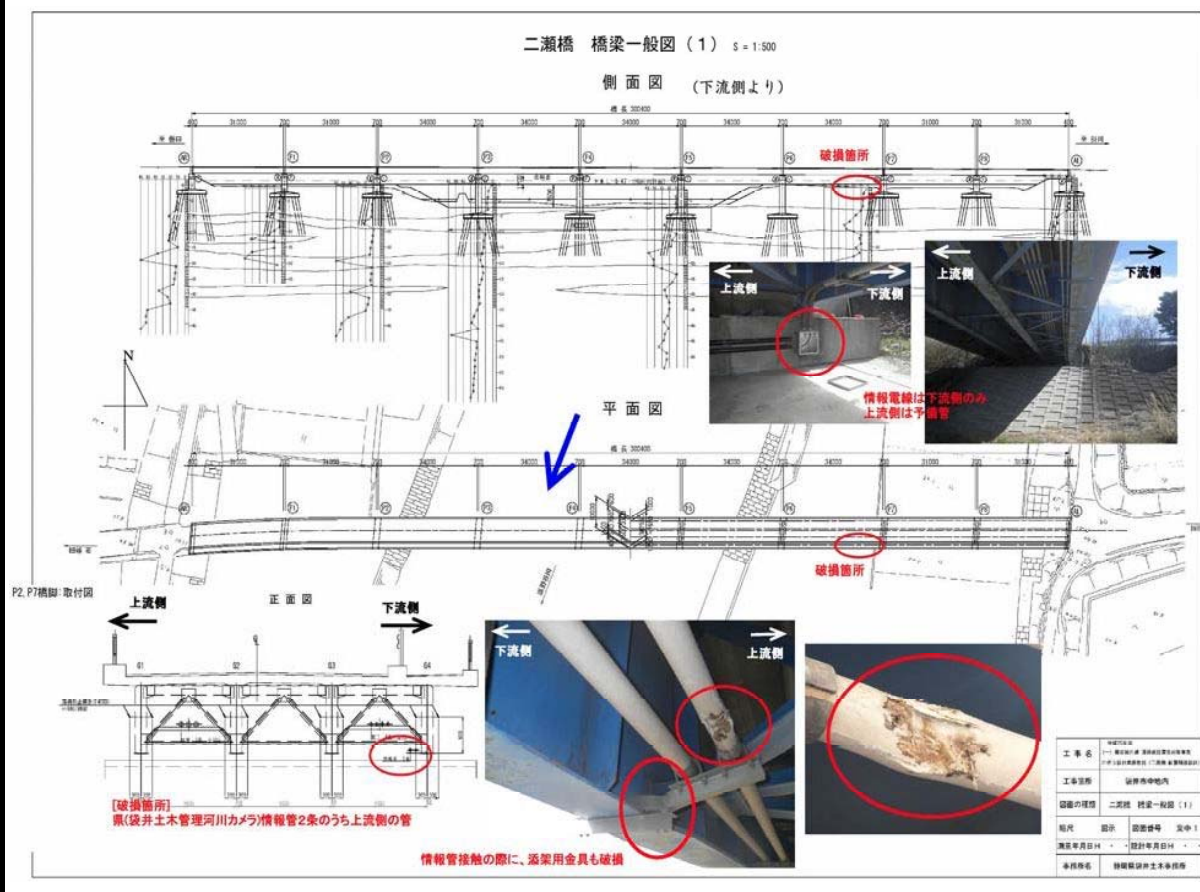
□安全対策の有無 バリケードによる第三者進入防止対策。(橋桁への対応なし)

〔再発防止策〕

- 問題点：
- ①橋梁の桁下での作業で、桁およびケーブル管に対する注意を促す措置がなかった。
 - ②バックホウ運転者に、桁下での作業についての注意喚起(KY、口頭)が、不足した。
 - ③桁下作業での見張り人がいなかった。
 - ④使用機械において、施工計画書通りの施工をしなかった。

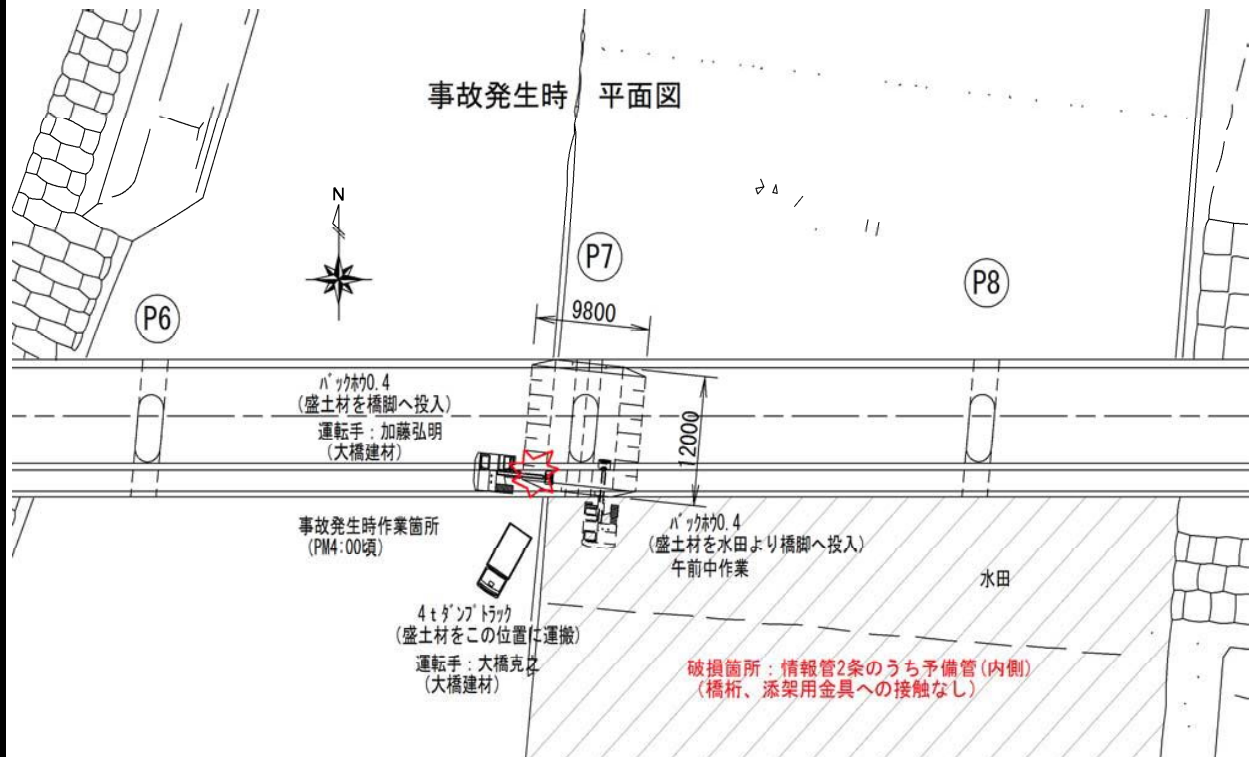
- 防止対策：
- ①桁のケーブル下に、旗ロープを張り、重機オペレーターに注意喚起を促す。
 - ②毎朝の朝礼にて特に桁・添架物・橋脚・周囲に注意する。
 - ③見張り人を置き、桁・橋脚に接近した場合、運転者に笛にて合図を送る。
 - ④施工計画書の施工方法を遵守する。(変更施工計画書の提出〔BH変更等〕)
 - ⑤再発防止対策協議会を開催し、安全意識の向上を図る。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

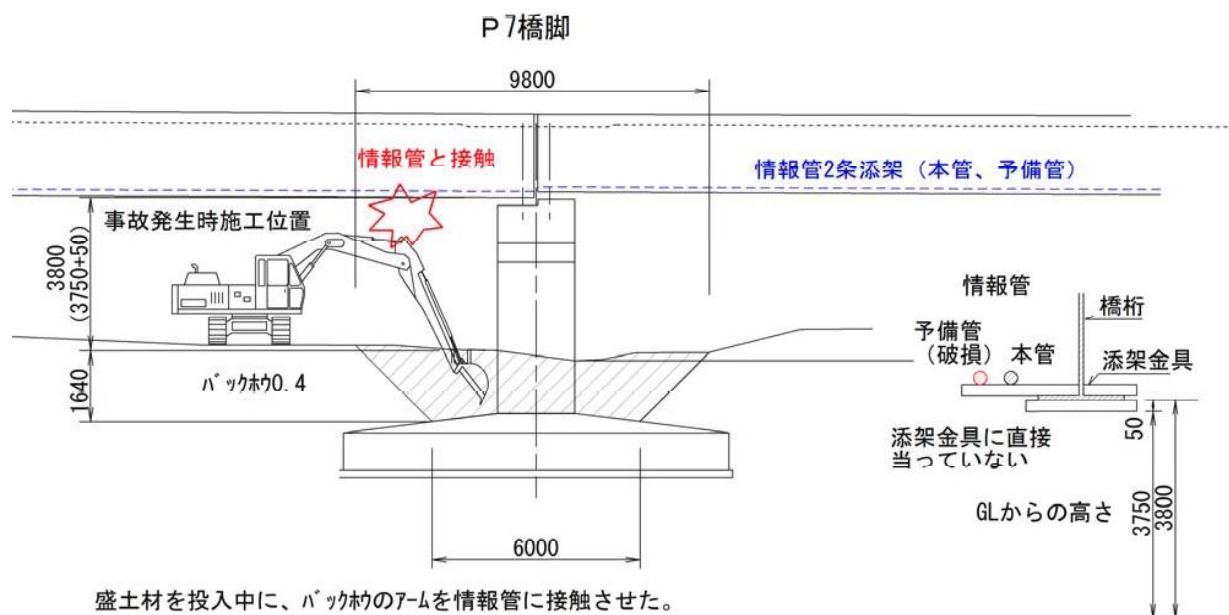


事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]



事故発生時 横断面図



盛土材を投入中に、バックホウのアームを情報管に接触させた。

破損箇所：情報管2条のうち予備管に接触し添架用金具も一緒に曲げた（橋桁、添架用金具への接触なし）

事故周知・再発防止〔平成 26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害: 第三者物損事故	工事区分	道路改築工事
事故内容	バックホウが電話線に接触	被災者 性別・年齢	NTT電話線・電柱
被災状況	電話線を引張ったことにより電柱が倒壊	被災者 職業	—

〔災害の概要〕

□現場の状況：

当日に予定されていた作業が早期に完了したため、次の日の作業準備として、バックホウで資材の移動を行っていた。

□事故の概要：平成27年3月14日(土曜日) 16:00頃

クレーン仕様バックホウ(0.45m³)で資材を吊り上げ、移動中にバックホウのブーム先端部が上空にあるNTT電話線に接触、オペレーターが気付かずそのまま走行したため、電話線を引張り電柱2本が倒壊した。

□安全対策の有無 KY活動で電話線に注意するよう周知、防護カバー・注意表示等なし

〔再発防止策〕

□問題点：

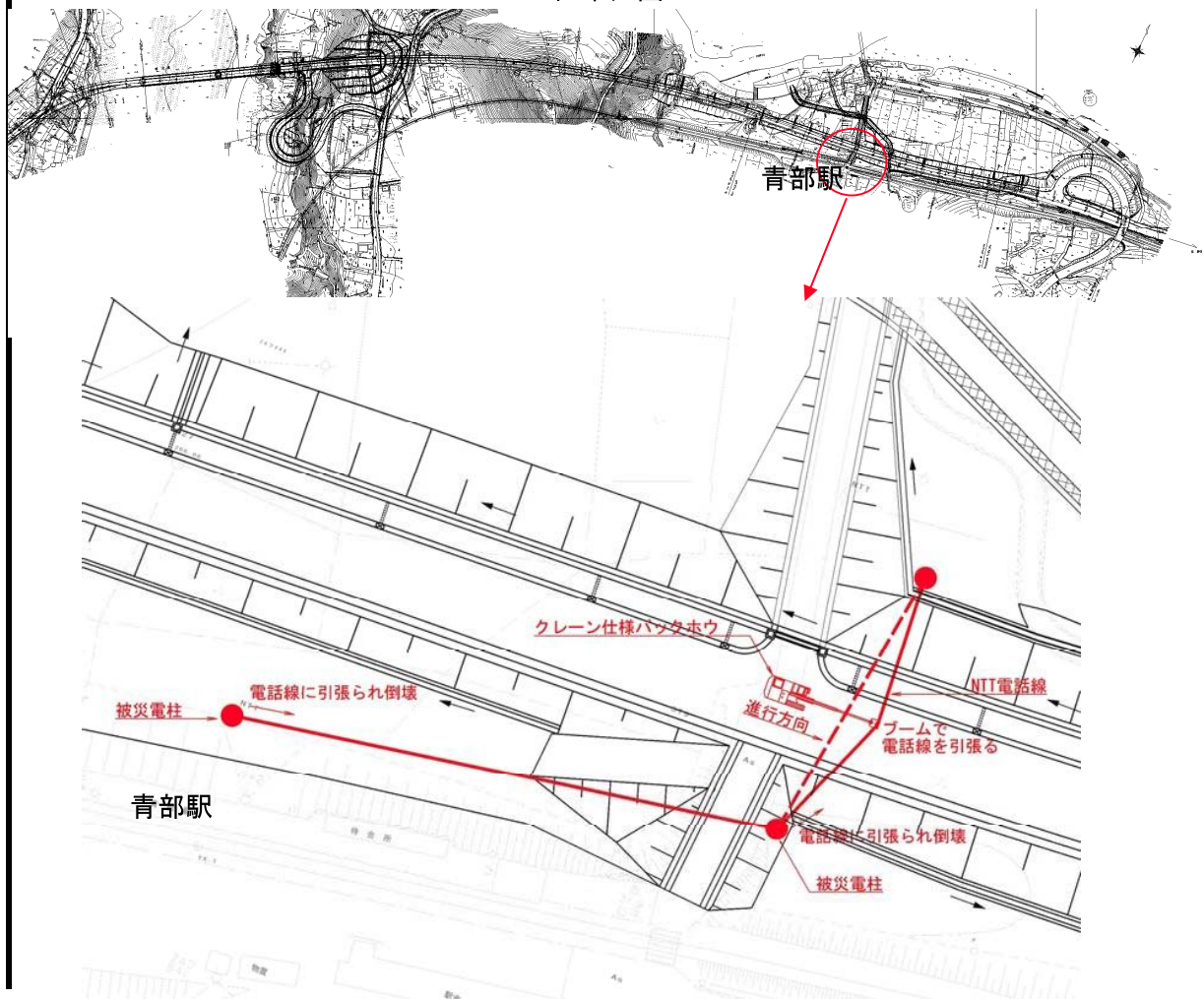
- ①防護カバー、注意表示がされていなかった。
- ②電話線が低く、安全に作業できる高さが確保されていなかった。

□防止対策：

- ①防護カバー、注意表示を行い、必要に応じて監視員を配置する。
- ②事前に電話線の移設を行ってもらい、作業時に安全な高さが確保されるようにする。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

平面図



事故周知・再発防止〔平成 26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]

事故状況写真



被災電柱



電話線状況



[事故の状況が分かる写真または図面]

復旧後状況写真

